

News

2006年1月号

No. 23

特定非営利活動法人
都市生活コミュニティセンター
〒663-8231 西宮市津門西口町 7-3
TEL0798-36-6679 FAX0798-36-5114



新年のごあいさつ

理事・事務局長 * 池田啓一

その昔、明治維新を経験した福沢諭吉は「一人で二人分の人生を送ったようなものだ」と語りました。第二次世界大戦の前後を生き抜いた人びとも諭吉と同じような感想をもったに違いありません。

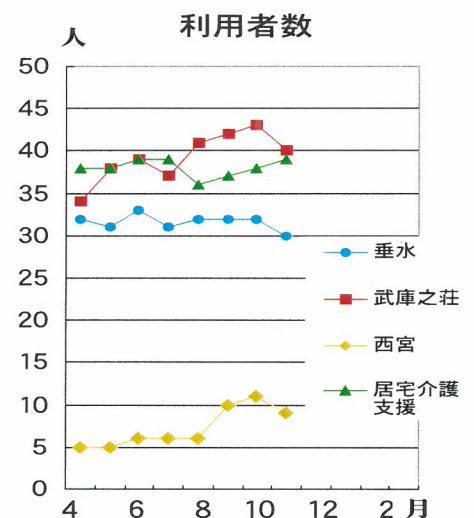
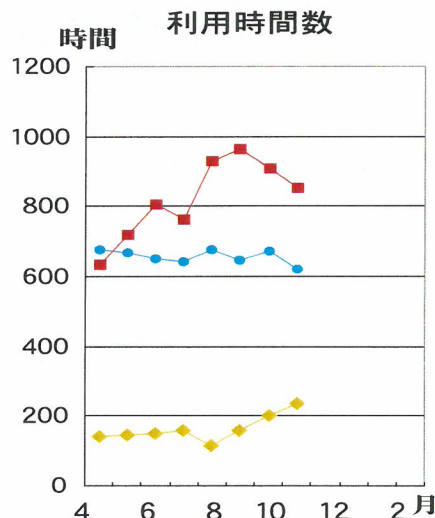
一九八九年のベルリンの壁崩壊から小泉政権の地滑り的大勝までのこの十六年間に振り返る時、かつてほどの激烈さはないかもしれませんが、私たちも同じような大転換期に直面しているのではないかという思いが募ります。介護保険制度の大改正、障害者自立支援法の施行、中越地震における復興制度の停滞など、二〇〇六年は私たちにとってまさに「大寒波」が襲来する年です。地域福祉や災害復興への私たちの取り組みは、この大転換を準備するための「麦踏み」の時期にさしかかっています。何としてもみんなの力を合わせ、冬の時代を乗り切りましょう。



2005年度☆介護保険事業報告

- ★あ・し・す・と（垂水）
- ★あしすと武庫之荘（尼崎）
- ★あしすと西宮（西宮）

●現在、3つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。
●武庫之荘では居宅介護支援事業（ケアプラン）、支援費事業も行っていません。



11月22日 新潟県十日町市樽沢を訪問しました。

都市生活コミュニティセンター 池田啓一

生協都市生活と都市生活コミュニティセンターの一行6名が11月22日、中越地震の被災地、十日町市（とうかまちし）樽沢（たるさわ）地区を訪問しました。樽沢地区は、震度7を記録した川口町から20kmほど信濃川をさかのぼったところにあり、地震で地盤が崩れ、30世帯に対して一年間にわたって避難指示が継続していました。中越地震の発生から367日目の10月25日ようやく指示が解除されたばかりです。

一行は十日町市吉田地区振興会会長の柳則夫さんからレクチャーを受けた後、柳さんの案内で地盤復旧工事がほぼ完成した樽沢集落の現地を訪問

しました。集落の30世帯のうち、約3分の1は地区を退去、約20世帯が留まる予定だそうです。地区に留まる約20世帯も半数は年度中には自宅再建のめどが立たず、この冬も仮設住宅での生活が続くとのことです。12月中旬には、この時期としては異例の大寒波襲来で早くも十日町市は150cmの積雪に見舞われました。昨冬に続く大雪が心配されます。

なお、生協連合会きらりが昨年度に取り組んだ復興カンパの一部は樽沢集落の共同施設の復旧に充てられることになっています。



十日町市樽沢地区地盤工事の様子
中央上の建物は集会所
(十一月二十二日撮影)

～インフォメーション～

- ガイドヘルパー養成研修開講予定
2006年1月21日(土) 22日(日) 28日(土) 29日(日)
- 関西学院大学災害復興制度研究所開設1周年記念フォーラム
語り合おう～被災からの再生
2006年1月14日(土) 10:15～18:00 神戸国際会議場・国際会議室301号室
10:15 開会挨拶、10:30 第1部 研究発表・特別報告、14:00 第2部 第2回全国被災地交流集会、15:30 第3部 シンポジウム、17:30～閉会
主催=関西学院大学災害復興制度研究所 共催=関西学院大学21世紀COEプログラム「人類の幸福に資する社会調査」の研究 後援=朝日新聞社
お問い合わせは
関西学院大学災害復興制度研究所 TEL 0798-54-6996 まで

新規会員募集

あなたの力を生かしてみませんか
きらり関係の方には、
1月16日より生協配達便にて
2006年度新規会員募集のチラシ
をお届けします。
会員の皆さまはお知り合いに
呼びかけをお願いします。